

令和5年度 高等学校入学者選抜審議会 第1回専門委員会 記録

令和5年7月7日（金）15:00～16:35
 県庁18階 1802会議室

＜審議会専門委員＞

熊谷 龍一委員、浅野 直美委員、小野 ゆかり委員、河本 和文委員、佐々木 久晴委員、
 中山 治彦委員

（欠席：茂木 悟委員、吉田 尚美委員）

＜事務局＞

遠藤 秀樹 参事兼高校教育課長、西城 光洋 仙台市教育局学校教育課長

（欠席：なし）

事務局	(資料の確認) (公開の確認)
	(開会)
事務局	(委嘱状・辞令交付) (委員の紹介)
高校教育課長	(開会あいさつ)
事務局	(事務局関係出席者紹介) (本会議の概要説明)
	(委員長 司会進行開始)
委員長	それでは次第に沿って進める。 まず、報告、令和4年度第2回専門委員会の審議の確認について、事務局から説明願う。 なお、質疑についてはその都度、時間を取りたいと思う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	ただいまの(1)の報告について質問願う。 (質問なし)
委員長	次に、審議の1、宮城県公立高等学校入学者選抜の実施に係る検証結果について事務局から説明願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	以上の説明について、区切りながら進めていく。まず昨年度の第2回入学者選抜審議会での中間報告した内容である、検証1から検証4について、何かあれば質問願う。 (質問なし)
委員長	続いて9ページの検証結果、これについて質問、意見等あれば発言願う。 (質問なし)
委員長	ではこの資料については、これまでいただいた意見などを踏まえ、事務局の方で再度、検討・修正をした上で、入学者選抜審議会に検証結果の最終報告として報告したい。事務局から何かあれば補足説明願う。
事務局	慎重な審議に感謝する。最終報告についてはさらに精査をし、検証1から検証4まで、提示した課題と検証のまとめの整合について、改めて見直して整理をした上で、最終報告書としてまとめる。
委員長	次に審議の(2)、求める生徒像の改善の方向性について、事務局から説明願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	説明があった部分を区切りながら進めていく。まず三つの課題それぞれについて

	<p>て、具体的な改善の方向性はこの後また審議していくが、まずは三つの課題全体についての質問・意見があれば発言願う。 (質問なし)</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>課題1について質問・意見があれば発言願う。特にこの課題については、非常によくわかる課題ではあるが、「ではそれについてどうするか」という改善のアイデアが非常に大事になってくる。ぜひ忌憚のない意見や、アドバイス等をお願いしたい。</p> <p>やはり、これを最初に読まなければいけない中学生にとって、どうすればより良くなるかということについて、中学校の立場から、小野委員、何か意見やアドバイスはあるか。</p>
小野委員	<p>この前も大崎地区の中高連絡会という、中学校の校長先生方と、高校の校長先生方が集まっての情報交換会があった。その席でも、やはり中学校の校長先生から、「求める生徒像がわかりにくいので、もうちょっとわかりやすくしてもらえないか」という意見があった。高校の校長先生方からは、「オープンキャンパス等があるのでそれにぜひ来ていただいて実際に見て、確かめてもらいたい」という要望があった。高校の校長先生方が中学校を回り、学校要覧を持ちながら、「こういう特色があるのでぜひオープンキャンパスに来ていただくと良いと思います」と、生徒募集のため宣伝をされている。県内各地を回るとは本当に大変なことと思いつつ、そうやって説明をいただくと、説明してもらった立場では、「ああなるほど、そういうところに力を入れているのか」とわかる。やはり保護者や生徒がオープンキャンパスに行くよう宣伝はしているが、今までのイメージからなかなか脱却できず、「全県一学区となり、県内のどの公立高校にも行けるのだから、色々なところに行って、ちょっとでも気になる学校は見たほうがよい」と言っても、なかなか保護者の方の意識も変わらず、三者面談をしても、やはり「求める生徒像」を保護者の方がよく理解できないので、子供たちもなかなか理解できない、というところがある。しかし、この「改善へのアイデア」のように文章を補足してもらえると、従来よりは、子供たちも保護者もわかりやすいと思う。高校側も大変だとは思いますが、文章を噛み砕いてもらえると、学校側も生徒に聞かれた時に、多少説明がしやすいので、ありがたい。</p>
委員長	<p>御意見に感謝する。今、「保護者の方にとっても」という話があったので、保護者の代表として、浅野委員いかがか。</p>
浅野委員	<p>保護者としても、このように、小野委員の発言の通り、砕いて説明してもらえると、子供も保護者も迷った際に、比較検討ができるのかなと感じるので、本当にありがたい。やはり学校の特色があると、自分がこの高校に入って、将来どのような方向に進んでいくのかというところを、親子で話し合うこともできるので、細かくお願いしたいと思う。</p>
委員長	<p>今度は、これを書く側である高校の立場としての意見をいただきたい。</p>
佐々木委員	<p>本校も、求める生徒像がちょっと具体性のない書き方になっていたかなと思う。実際には、先ほど話があったように、オープンスクールに来てもらったり、学校でつくるパンフレットで詳しく説明したり、来校した中学生たちに色々と説明したりすることで、「ここはこういうことだよ」という説明をしている部分は確かにあったと思う。もう少し詳しく細かく書いていくということが必要だったのではないかと、改めて今感じている。以前は、限られたスペースであるから端的に説明しよう、という考えもあったが、それではやはり伝わらない部分があったと思うので、細かい表現を考えていくということに取り組みなければならないと感じた。</p>
中山委員	<p>私は昨年まで県立高校で校長をしていたので、実際、こういったご指摘をいただくと、確かにわかりづらくなっているなというふうにする。学校においては、例えば校訓や教育目標、こういったものをベースにして、この求める生徒像を作っている。そうすると、やはりこの「具体化」という面に課題がある。このような形での表現に変えていくということ、これはそれぞれの学校の地域に対してのアピールにも繋がっていくかと思う。そういう意味においては、こういった視点で考えていか</p>

	<p>なくてはならないと考える。前任の学校では、実は県内で唯一、農業土木コースというものを持っており、これがやはり地域の方々には、特に中学生の皆さんにはわかりづらい。何をやるのだろうと。さらには、ここに入学することによって、将来的にどういう進路に繋がるのだろうと。こういったことが非常に判別しにくいという課題がある。このため、その学科に生徒がなかなか集まらないという課題を抱えていた。そのように考えると、やはりこういった「具体化」ということは、今後検討すべきところとして必要かと思う。この方向でよろしいのではないかと。</p>
河本委員	<p>公立高校の求める生徒像の表現は、確かに具体的でないところがあって、抽象的でわかりにくいというご意見はもっともだと私も感じる。ただ、より具体的にすればいいのかというと、逆に具体化することによってその対象を狭めてしまう可能性もあり、各高校、「このぐらいの表現でとどめておこうか」という検討を、大分されたと思う。求める生徒像をある程度具体化したとしても、必ず残る問題として、例えば学力については、学力がどれぐらいついているかという物差しは、当然この試験の方で測れる。しかし、例えば、「求める生徒像の4番5番に当てはまる生徒を重視します」と書いているが、この重視するところを何の物差しではかるのかという、その物差しが見えない。その物差しが見えないために、一体どういうふうに対応すればよいのだろうか、と。まして中学生だと、自分自身でこの生徒像、求める生徒像に合っているかどうかということをはかる術も何もない。何も示されていないわけだから。だから、求める生徒像の文章だけをより具体化するとかということではなく、その下にある、その特色選抜の試験の方法等にも関連してくるかと思う。そちらの方で、例えば漠然と面接などがあるが、この面接は一体何を見る面接なのかと、面接の中身は全然見えていない。おそらく受験報告書みたいな形で、先輩たちから、「面接でこんなこと聞かれたよ」というふうなことは伝わっていくかもしれないが。面接によって一体どんな力が、どんな姿勢が測られているかということは見えない。まして、中には作文とか、別な形の試験を実施する高校がたくさんあるかと思う。また調査書とか、そういうもののどこが評価されているのか。この「求める生徒像」に関わるところで、どこがとほっきりは言えないと思う。総合的な探究の時間とか、活動の記録などを重視しますよ、とは書いてはいるが、それがその求める生徒像のどこの部分を評価することになっているのかということは見えない。だから、求める生徒像の文章だけをより具体化していくという方向性ではなくて、この特色選抜における、他の試験の部分で、「ここではこういうことを目的とした面接です」とか、或いは「こういうことを調査書、或いは資料等で判断していきます」とか、そういうものを明確することによって、この求める生徒像に、自分が沿っているかそうでないかということ、判断しやすくなるのかなと思う。是非とも求める生徒像の文章だけ別個に見ないで、その他との関連性をよく考えて、より生徒に具体的に伝わるように、面接でこんなことを聞かれているということからここを見るんですよ、自分の意思がそこで確認されるんだとか、そのような方向性が見えることによって、この求める生徒像が生きてくるのかなというふうに感じている。</p>
委員長	<p>大学でも、こういう求める人材が書かれるが、同じような問題があり、具体的に書くという段になると大変難しいというのは、非常によくわかる。この点について、ご意見あれば、どなたからでもよろしいのでぜひ発言願う。特に、今いただいた特色選抜との関連については、次の課題2でも兼ね合いが出てくると思うので、またそこでも意見を皆様からお願いしたい。</p> <p>私個人、感じていることだが、改善のアイデアについて、確かにこういう具体的な言葉にしていくというのは大切だとは思いつつも、やはりここを書くというのが大変で、難しいのではないかと。結局、またこの「コミュニケーションを図り…」などは、どの高校でも同じような文言になってしまって、結局のところ差別はつかないということが出てくるのではないかと。特に普通科はこの部分の差別化は非常に難しいと思う。この部分、もし高校に対して、何かアドバイスの、こういうような書き方ってというのがあれば…というのが出ればいいのではないかなと思いつつも、なかなか難しいところもある。特に、次の課題にも繋がるが、特色選抜と併せてどう変えていくかということも、確かに非常に大事かと思うので、この辺りにつ</p>

	<p>いても、もう少し検討して、提案していればよいと思っている。 他に何か追加で意見はあるか。 (意見なし)</p>
委員長	<p>この後、課題2、課題3と、また審議が続くが、それぞれ、また意見いただきたいところが多くあるので、一度ここで5分程度休憩を取る。</p>
	(休憩)
委員長	<p>それでは再開する。課題1についての意見に感謝する。課題1にも関連してくるが、課題2について、事務局から説明願う。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>説明感謝する。 この特色選抜の部分も、実際の受験生である中学生が大事に読んでいくところなので、ここについてもまた、それぞれの委員からの意見をいただきたい。中学校の立場から発言願う。</p>
小野委員	<p>確か、学年集会等で学年主任が、「ネットでも見れるから、学校に冊子はあるけど、見たいところはネットでちゃんと調べておくんだよ」ということを言っていたのを覚えている。先ほども話したが、ここに書いてあることからだけ読み取るのはとても難しい。確かに、この特色選抜のところに、「上記のどこそこを重視します」とか「(審査対象人数が)何人」というふうに書いてもらえると、ネットで見ても、今のものより、子供たちにとってはとてもわかりやすいと思う。今、本校でも、廊下にこれ(求める生徒像・選抜方法一覧冊子)をぶら下げているが、なかなかそれを見るという感じではないので、学年主任がネットからダウンロードして、廊下にベタベタとわかりやすいように貼ってくれていて、その下に各高校から来た学校要覧を置いて提示している。高校側も本当に努力してくれており、こちらの方も改善してもらえると、生徒も、三者面談に来た時の保護者も、それを見て、「ああなるほど、こんな感じなんだな」ということがわかって、良いと思う。</p>
委員長	<p>保護者の立場からはいかがか。</p>
浅野委員	<p>私も、小野委員と重なるが、やはりこの丸で困ってもらった「62人」というように、具体的な人数で、数値で示してもらえると、子供も生徒も保護者もわかりやすいと思う。</p>
委員長	<p>発言感謝する。では高校側から意見をいただきたい。むしろ書く側になると、「ここは、本当は書きづらい」とか、色々な意見があるのではないかと考えられるので、ぜひ発言願う。</p>
佐々木委員	<p>まず、どこまで書けるのか。選抜方法ということなので、なかなか表現するのが難しいというのが正直なところで、改善のアイディアのように、どこを重視するかとか、そういったものを特色選抜のところに書いていくとか、人数を出すとか、ということはあるかな、と思う。やはり、もう一度学校側で、その「検討の主な視点」に書かれていることに合うような形になっているのかを見直して、やれるところはやっていく、ということになるのかなと思う。あとは、例えば調査書点と学力検査点の差がないようにしているとか、調査書も学力検査の方も大体同じぐらいの割合で見えるようにしているとか、この学校はそういう学校なんだからねと、ここで中学生側にアピールしているつもりではあったので、そういったところがわからないということであれば、そこも何かしらの形で表現するか。あとは、この求める生徒像冊子で、各学校でどういう配点割合になっているかというのは、実は、後ろの方に一覧表になっている。各学校がどういう割合で選抜しているかを公表し、比較して見られるようになっているのが、このピンク色の冊子155ページ、選抜方法等一覧のところで、一覧表の形になっている。そこで、各学校でどういう割合になっているのかを比較しながら見てもらえるのだが、そこがまだ中学校の方には伝わっていない。その見方についてもアピールしながら、中学校が受験生の皆さんにも説明していればよいのではないかと感じた。</p>
中山委員	<p>こちらがわかりにくいというのはその通りだと、私自身も高校にいたときの立場からすると感じている。というのは、ここに記載されている中身というのは、入試に関する客観的な数値や、客観的事実であると。だから、どうしてもそこには数字上の</p>

	<p>ものが反映してくるので、これをわかりやすくということがなかなか難しいと感じている。それを、このような形で改善のアイデアとして示してもらったので、これで少しでも解消できるのであれば、非常にプラスになるのではないかと考えている。先ほど小野委員からあったように、多分、中学生からすれば、これだけを見て決めるという話ではなく、これもあくまでも情報の一つということになるかと思うので、その情報を読んでいくため、先ほどの提案のような形でわかりやすい表記が付加されていくことが必要ではないかと思っている。</p>
河本委員	<p>発言の前に伺うが、この特色選抜と共通選抜は、中学生が出願した時に、出願者全員がまず、特色選抜で選考され、そのあと共通選抜で先行されるという形になるのか。</p>
中山委員	<p>学校ごとに選抜の順序を決めている。</p>
河本委員	<p>学校ごとに対象は受験者全員、承知した。まず、一つ一つの各学校の求める生徒像から始まって、選抜方法等のこの冊子だが、例えば特色選抜の時に何を主眼として見るかということ、「特定の教科が重視されているか、されていないか」というところだと思う。調査書も、特定の教科科目が重視されているか、されていないかと。全部均等になっているか、或いは5教科・4教科と分けて差をつけているとか、様々かと思う。これは学校を選ぶ素材にはなっていないということではよい。要するに、大学入試だと、共通テストが終わって、自己採点して、予備校が出してくるバンザイシステムとか、いろんなシステムを入れて、「この大学だと可能性が非常に高い」とかいう資料をもとに、実際の受験校を決めるということだが、これは出願が終わって、それから試験を受けて、それで合否が判定されるということなので、もうその試験を受けた後には、すでに出願する学校が決定している。そうすると、自分の出した結果も見ながら、ということではなくて、特色選抜の配点の不具合とかそういうものは度外視して、自分が入りたい高校を選んで受験している。この特色選抜の中身によって学校を選んで試験を受けているわけではないということ。この手順が変わらない以上、受験者が知りたいのは、何点とか何倍とかではなく、要するに教科間で差があるかないか、そこだけだと思う。「理社だけすごく重視されますよ」とか、それともどの教科も均等に扱われるのか、という情報だけが必要なのではないかと思う。A校が調査書の配点が何点で、B校が調査書の配点が何点だからというのは、あくまで後から出願する時に、ここが有利だとか、そういうことを判定する素材であって、各学校でこのように、調査書点とか学力点の配点がまちまちになる、というふうなところは、結局学校の選択には至ってないということを見ると、先ほど佐々木委員から出た、後ろの一覧表についても、共通選抜について学力検査と調査書の配点の比率が出ているが、特色選抜においては、調査書が何点、学力検査が何点という情報よりも、どちらかということ、科目間に差があるかないかという情報の方が必要だと思う。そういうところで、この配点のことをきちっと出すことは、確かに親切心かもしれないが、この学校がどうかという選択の材料には至ってないというところは、この資料を非常に複雑にしている原因のもとになっているのかなと私は感じる。</p> <p>それから、選抜方法について、調査書を具体的に判断するというと、中学校でどういう調査書を出したのかという、責任的な重さが非常に強くなってしまっているので、中学校現場の負担を助長してしまうような形になってしまうところもあるので、やはり特色選抜における学力検査以外の扱いの方を、具体的に、こういう記載がある場合にはこういう評価がされるという情報の方が、この試験の情報として、必要なのではないかと感じます。</p> <p>私学の方は、実際はもうほとんど、このような調査書とか何とかというようなところを、細かく配点を変えろといった作業はほとんど行わないが、推薦などの入試については、「面接でこういうことを聞きますよ、それに対してきちっと答えられるようにしてください」というような、提示はしている。やはり選抜方法を書くよりも、例えば面接だったら、面接はこういう力をみるとか、試験の目的を記載した方が、受験生にとっては、非常にわかりやすいものになるのかなと感じる。</p>
委員長	<p>発言感謝する。私自身も実は保護者の立場として、過去2年ぐらい、この特色選</p>

	<p>抜のところを見てきた。私は一応、ある程度専門的にこういうものを見たりする立場だが、やはりなかなかわかりづらいなと感じる。共通選抜・特色選抜というのは何なのかというところからわからない、という部分も実はあった。もちろん、しっかり読めば書いてあるとはいうものの、やはり、ぱっと読んですぐわかる、ということでもないので、この辺をどう伝えていけばいいのかというところを、考えていければいいのではないかと思う。</p>
小野委員	<p>中学校の現場だと、数学・英語が2倍とか、その辺は子供たちの学力に合わせて重視している。数学が苦手な生徒に、「数学は2倍になるんだよ、いいのかな」という話とか、また学力が低い子供ももちろんいるわけで、そういう子供たちは、面接の点数がもらえるところはありがたいわけで、「面接練習をしっかりとやって臨もうね」とか、そういう話をすることもある。それから、先ほど、普通科だとなかなか特色がわからないという話があったが、特色選抜のところ、4教科5教科に分けてその倍率が違うところや、5教科の中でも教科によって微妙に倍率が違うところがある。全県一学区になったので、東北本線で今まで北の方にだけ行っていたのが、南の方に行く子供も増えてきて、北の方の普通科高校より、南の方の普通科の方を選ぶ成績上位の子供たちが増えてきている。成績上位の子供たちは、この特色選抜で配点が何倍かを確認して、去年、一昨年は選んでいた。だから上位の子供たちには、この特色選抜のところはわかりやすいし、担任の方も、ここの部分で説明をしていた。</p> <p>ただ、先ほど求める生徒像のところ、発言すべきだったが、専門学科の高校だと、具体的には古川工業だが、学科によって、建築とか機械とか、そこを変えただけの求める生徒像になっており、子供たちはそれを見ただけでは全くわからない。例えば電子・電気だったら、もうちょっとわかりやすい何かを書いてもらうとか。もちろんオープンキャンパスに行けばわかるのだが、これを読んだだけでは、ちょっと不親切だなと感じる。</p>
委員長	<p>発言感謝する。今までいただいた色々なアイデアを加味しながら、修正案を考えていければよいと思う。</p> <p>それでは続いて、課題3について事務局から説明願う。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	課題3につきまして、質問・意見あれば発言願う。
小野委員	この学校情報のリンクを二つ貼っていただいてありがたい。夏に三者面談を3年生は行うが、担任はタブレットなどを駆使し、3人で情報を共有しながら、また電子黒板で大きなものを映しながらやっているの、ここにこのようにリンクがあると、3人で情報を突き合わせる事ができ、とてもありがたい。
委員長	確認だが、この求める生徒像はPDF版もウェブで出ていると思うが、この二次元コードは、そのPDF上でも、クリックするとそのまま直接リンク先に飛べるのか。スマホだとそういう機能がついているが、PCだと、ものによっては飛べない場合がある。リンクを付けたりすることは可能か
	(委員数名より、可能であるとの声)
事務局	<p>追加の資料について、1点補足する。この資料は、二次元コードを2つ掲載しているが、右側の二次元コードは、「公立高校ガイドブック」と呼ばれるものである。ブックという名前にはなっているが、電子媒体で作成しており、手元の例のように、A4、2枚組で、左側のページは、すべての公立高校で同じ体裁をとっているの、学校間の比較が可能である。また右側については、学校の魅力発信ということで、学校行事等、特に力を入れて頑張っていることを、写真を交えて掲載する仕立てになっている。これは毎年作成し、県の高校教育課のホームページ、また各校のホームページに掲載しているが、コロナもあり、なかなか紹介する機会がなかった。子供たちがウェブから情報を取得することが大分増えてきているということもあり、今回、この求める生徒像にも二次元コードを付加すれば、スマホをかざして…ということも可能と考え、リンクとして貼るような形で提案した。補足については以上である。</p> <p>これとはまた別の審議だが、高校教育課のホームページで、各校のホームページや、各校のオープンキャンパスなど、それぞれのページが別仕立てで、学校が一覧になっている。その使いづらさということも、実はご指摘いただいている。例えば全部</p>

	<p>表組みにして、どこか一つに飛ばせば、各学校の情報が並んでいるという形にするとよいと考えている。「探さないとたどり着けない」という形ではないほうがいい。ただ、このページの二次元コードをPDFでウェブ上に掲載しているので、そこをクリックしてリンク先に進めるかどうかは、技術的なところもありますが、何らかの工夫をして、Webサイトを見たとしても、その先に飛べるよう検討して参りたい。</p>
中山委員	<p>高校の立場だと、こういう形で示してもらおうと、高校側も非常にアピールになると思う。あと、先ほどせっかく資料を配っていただいたから申し上げるが、実は高校側とすると、これ（公立高校ガイドブック）を、アピールのポイントとして非常に頑張っている。ここまでの経緯で、求める生徒像が冊子になってしまっているというのは、仕方がないことと思っているが、実はこれ（公立高校ガイドブック）が冊子になっているとよい。中学校や、中学生たちが見て、比較をしながら、この学校のこういったところいいね、というように話をしていただけるものと感じている。なかなか難しい面もあると思うが、そういったところも今後、入試の理解、また学校の特色の理解という意味では、重要かと思う。</p>
河本委員	<p>レイアウトの変更等は本当にいいと思うが、やはり資料がどのような形で使われるのか考えたときに、この冊子を1ページ1ページめくって、それぞれの学校の中身を読んでいくということは、至難のわざだと思う。だから最後の方に、各学校を一覧表にしている。157ページとか158ページあたりがそうだ。でも、ここで見たいのも、特色選抜において調査書が何点で学力検査が何点、という点数よりは、どちらかという、特定の科目が2倍されるとか、そちらの方が知りたい情報である。それも数字ではなく、教科で配分が変わるということ、一つのマークで見られるというようなものであれば、一覧表をざっと見た時に、「このマークついている学校だから、この学校についてもう少し詳しく見てみよう」と思える。一覧表がすべて数字になっているところが、活用する側としては非常に見づらい。親切なのかもしれないが、逆に見づらいものになっている。やはり、特定の、例えば「音楽とか美術の4教科の方を重視する学校がどこかないか」という時に、そのマークがついているところを見て、ここがあると。「僕は体育とか音楽が得意で、評定が高いから、特に学校間で差がないのであれば、そういう学校の方がいいのかな」というふうに判断する時には、申し訳ないが、（現行の冊子は）使いづらい。例えば、先程ざっと見ていて、仙台西高校と、仙台南高校が並んでいるページがあって、おそらく受験生がどちらを受けようか迷う学校ではないかと思うが、二つを比較していくと、求める生徒像のところは、あまり変わらない内容が書いてあって、違いはどこかというところ、特色選抜において、音楽・美術・保健体育・技術家庭を2倍にするというところだけで、あとはほぼ同じ扱いだ。でも、これを全部、一通り読んでみて、そして次も全部読んでみて、こっこの学校とこっこの学校は違いがあるということが初めてわかる。</p> <p>それならば、この特色選抜と書いた文字の横に、先ほど言ったような、教科間で差があるマークがついていれば、そのマークを見ただけで違いが判断できる。そういう形で、見る側にとって、特徴がすぐパッと、マークを見てわかるというような工夫を入れていくってということも、この冊子の活用が進むか進まないかということに関わってくると感じている。すべて文字情報というところで、親切な丁寧な資料にはなっているが、活用する側にとってはどのようなものなのかと見比べて、調べる場合に有効になっているのかということも、併せて考えていった方がよろしいのではないかと思う。</p>
委員長	<p>発言感謝する。他に意見はないか。 （意見なし）</p> <p>様々な意見に感謝する。現行の入試制度の検証によって見えてきたこの課題の中で、求める生徒像のこのピンクの冊子や、特色選抜については、高校入試を控える中学生、保護者にとって非常に重要なものになる。委員の皆様からいただいたご意見に関しては、中学生や保護者にとってよりわかりやすく使いやすいものとなるよう、事務局の方で作成に向けた調整等、よろしく願います。</p> <p>本日の審議はこれで終了とする。事務局から連絡等はあるか。</p>

事務局	<p>慎重な審議に感謝する。審議いただいた、検証結果の最終報告と、求める生徒像の改善の方向性については、7月26日に予定する第1回高等学校入学者選抜審議会に報告することを予定している。報告内容については、本日のご意見等を踏まえて整理した上で、メールで送信するので、確認をお願いしたい。</p>
委員長	<p>では、審議内容の整理・修正等について、事務局よろしく願います。本日の審議はこれまでとし、進行を事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>(閉会)</p>